

令和3年度学校評価アンケート（2学期保護者）の結果

令和4年2月 教頭

1 数値の高い項目より

質問①「学校は楽しい」

質問②「授業はわかりやすい」

質問⑭「先生はいけないことはいけないと言ってくれる」

質問⑳「学校は家庭からの相談ごとなどに対応している」

⇒ 全て1学期に引き続き、9割以上の肯定率だった。教職員が学習指導の改善に励み、児童が学習に意欲的に向き合っていることがうかがえる。また、生徒指導対応がなされておき、学校が学習に励み、楽しく生活できる場としての信用を得ていると感じる。

質問㉑「家庭では、子供たちに基礎的・基本的な生活習慣を身に付けさせている」

⇒ 1、2学期ともに全項目で肯定率が最も高い。

家庭における教育力に対し、各家庭の自尊心の高さを感じる。

質問⑪「自分のことが好きで大切に思っている」保護者 93.6% 児童 79.3%

⇒ 保護者と児童の意識が異なる。児童が自分に自信を持つことができていることを保護者が理解しきれておらず、過干渉であることも考えられる。

2 数値の低い項目より

質問㉒「進んで読書をしている」1学期 50.3% 2学期 62.0%

質問㉓「自ら家庭学習をしている」1学期 72.4% 2学期 72.5%

⇒ いずれも数値があまり向上していなく、家庭での学習での主体性が育ちにくい。

質問⑤「考えや思いを言葉や文字にして表すことができる」

1学期 77.6% 2学期 79.5%

⇒ 思考力・判断力・表現力の充実をテーマに授業改善を行ってきた結果、数値が向上している。「肯定率」が向上したものの「平均値」が下がっているのは、アンケートに「3」と回答した児童が集中した為と考えられ、下位層の児童が伸びている反面、上位層の児童に対する指導の充実が図れていないことが考えられる。

質問⑧「まわりの人に自分からあいさつができる」

1学期 76.4% 2学期 82.5%

質問⑨「まわりの人のお話をよく聞くことができる」

1学期 79.0% 2学期 81.3%

⇒ どちらも1学期に課題とされていたが肯定率が上昇した。

質問⑮「目標やめあてをもって学校生活を送っている」

保護者 77.8% 児童 88.7%

⇒ 保護者と児童の意識が異なる。目標やめあてについて家庭で話題にする機会が少ないように感じられる。

質問⑧⑨より

他者との関わりについて、「あいさつ」や「話を聞く」といった指導しやすい項目については向上した。反面、質問⑦「まわりの人と相談や話し合いなどしながら自分から学ぼうとしている。」といった数値にはあまり変化がなく、協働して学習を進める意識は今後も課題である。

質問⑳㉑㉒より

「基礎的な生活習慣」に対する指導は、1学期に引き続き家庭教育において意識が高い。しかし、ネットマナーについては課題となっており、家庭でのルールなど今後は学校からのより一層の啓発も必要と感じる。また、家庭学習における数値も少ししか向上していないことから、家庭の意識として、「学校で指導するもの」と捉えている傾向も感じられる。